

歩行支援の第一歩 / 訪問介護の認知症ケア②

介護専門職の総合情報誌

第19巻第2号 (通巻第216号) 2008年1月1日発行 毎月1回1日発行 平成4年12月25日第三種郵便物認可

おはよう21

OHAYO21

2

February
2008

特集

歩行支援の第一歩 歩くことから始めよう

在宅特集

訪問介護の認知症ケア②

連載

事例で身につける 介護職の薬講座——藤澤節子

「座る」ことから始めよう——大淵哲也

「生活支援」の介護を考える——森繁樹

好評連載

第20回介護福祉士国家試験予想問題

(実技試験模擬問題)



おはよう ウォッチング



OHAYO WATCHING

小規模多機能ホーム
「ひばり」
(鹿児島県鹿児島市)



遍路必携の奉納経帳。札所が参詣を証明する朱印を押して、遍路の証しとなる。朱印で真っ赤に染まっているのは先達のもの

四国八十八か所の遍路を究極の介護予防に バリアフリーの旅に挑む専門旅行社

四国八十八か所の霊場を残らずお参りし、般若心経と真言を唱える四国遍路こそ、心身の健康を保つ究極の介護予防だ。その醍醐味を、身体が不自由な車椅子の人たちにも体験してもらう介護付き旅行が注目を浴びている。介護旅行専門の(株)エス・ピー・アイ(あ・える倶楽部)が催行する「バリアフリー四国八十八ヵ所霊場巡拝・心の旅」である。新しい介護市場の開発に挑戦する「修業の道場・土佐編7日間」に同行してみた。



「車椅子の遍路は2度目」という2人は旅のベテラン。四国八十八か所全霊場の踏破をめざす

旅をしながら要介護者の夢を叶える 「屋根のないチームケア」

参加者は、介護保険認定で要介護2の男性と奥さん、身体障害者手帳1級をもつ女性の3人。うち2人は、車椅子や電動車椅子の常用者だ。東京と九州から新幹線で新神戸駅に集合し、ジャンボタクシーに乗り換えて瀬戸内海を渡り、高知県の室戸岬へまっしぐら。第24番札所の最御崎寺を振り出しに、第43番札所である愛媛県の明石寺までの7日間、旅行と介護のスキルを兼ね備えたトラベルヘルパーのサポートで踏破した。

初日の宿「最御崎寺へんろセンター」によると「車椅子の遍路ツアーは初めて」。一行は翌朝6時から、相宿の遍路さんらと、真言と般若心経を唱和するお勤めに。エレベーターが3階止まりの宿坊で4階の仏間に行くことができたのはトラベルヘルパー2人と、ヘルパー資格をもつ添乗員、介護移送を得意とする先達兼タクシー運転手がしっかり介助したおかげ。先達とは、経験を積んだ遍路ガイドを指す。

ジャンボタクシーは乗降時、自動的に補助ステップが出る障害者仕様。土佐の遍路寺の多く



真言と般若心経を唱和する車椅子遍路の一行。車椅子利用のお遍路2人と付き添いの家族ら3人の旅行者に、添乗員、タクシー運転手、トラベルヘルパーの合わせて4人がお供する



楽しくなければ遍路じゃない。第24番札所・最御崎寺に近い室戸岬でバンザイ!

は山の中腹にあるので、タクシーで行けるところまで登り、本堂・大師堂までの急な石段や急勾配の坂道では3人のスタッフが介助。その間に運転手は、遍路のパスポートにあたる納経帳を納経所に持参。お参りの証拠となる朱印を押しもらう。

トラベルヘルパーは手水、灯明、線香とお賽銭、巡礼札を納めるという一連の遍路作法を手伝い、懺悔文、般若心経、光明真言、回向文などのお祈り、お経、呪文を全員で唱和する。その合い間に添乗員は、次の札所の障害者用トイレの確認や交通機関の時刻表を調べるなど、添乗員本来の仕事をこなし、歩きながら電動車椅子のバッテリー消耗度をチェックする。宿ではお客さんの入浴介助も。過酷な労働だが、スタッフも運転手も冗談を絶やさず、旅の緊張を解きほぐす。介護旅行とは、屋根のない移動空間で行うチームケアなのだ。

「人のできない仕事にやりがい」 介護旅行を求めて二度転職



真言と般若心経をコピーした紙を、身体が不自由な人でも持ちやすいようにラミネート加工したのは、先達(遍路ガイド)を兼ねたタクシー運転手の工夫

険しい山上に建つ札所の本堂まで車椅子客を案内するツアーは「わが社だけ」。そう自負する添乗員の伴流高志さんにとって、バリアフリー・四国遍路の実現は長年の夢だった。

旅の夢を売る理想に燃えて旅行会社に入ったものの、廉売競争に明け暮れる業界に幻滅。介護旅行ができる会社に転職したが、そこでも夢が遠いことを知り、再度転職してエス・ピー・アイに。2006年8月、有給休暇を取って自費で四国遍路全コースを3週間で踏破。障害者用トイレの有無やお寺の対応などを綿密に調査。四国の全札所のバリアフリーマップを作るなど準備万端整えて07年、夢のスタートにこぎつけた。4回に分けて全札所を踏破する旅行企画だ。初回は1番札所の靈仙寺から23番の薬王寺までの徳島県コース。視覚障害者を含め5人が参加した。今回の参加者は初回からのリピーターである。

旅行費用は一人当たり28万8000円。今回は参加者3人に対し、スタッフ4人が同行し

車椅子を運んで道路を進む、
バリアフリー遍路の一行



た。介護専門旅行業の先達である篠塚恭一社長は、末期がんでも寝たきりでも「本人の意思、家族の同意と主治医の許可が揃えば、世界中のどこへでもお連れします」と胸を張る。

篠塚社長は、要介護高齢者のうち旅行体験をもつ人々を150万人、そのうち強い旅行願望をもつ潜在リピーターを1〜10%程度と見積もり、10年前から旅と介護を支援するトラベルヘルパー要請に着手。大手介護会社とも提携してきた。06年にはNPO法人日本トラベルヘルパー協会を設立。今回は最少催行人員8人の商

品設計のため赤字覚悟だが、新市場に布石を打つためのテストマーケティングと割り切っている。

ユニバーサルデザイン社会を目指し、100億円市場に先手を打つ

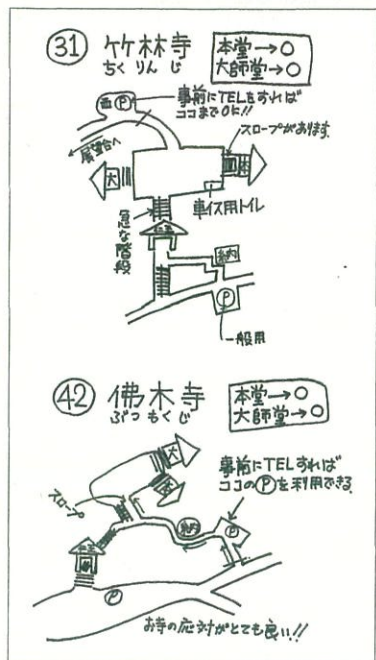
介護旅行の市場規模は「およそ100億円以上」(篠塚社長)。旅行業の総売上15兆円に比べれば微々たる額とはいえ、介護保険事業と異なり、料金設定は自由である。介護旅行は病気や障害の有無にかかわらず、旅に出て楽しみや生きがいを求めるユニバーサルデザイン社会にふさわしい将来商品だとすれば、その開発に必要なノウハウと実績を蓄積し、先行優位に立つ。

「人のやらないことに仕事のやりがいがある」(伴流さん)。介護旅行は、高齢社会の「明日に架ける橋」なのだ。蓄積した情報やノウハウは後輩たちと共有し、介護旅行のインフラづくりや地域資源整備に役立てたいという。

松葉杖にすがりながら札所にたどり着いたお遍路さん。一心にお経を唱え終えると、松葉杖を忘れて歩き出す。嘘のような話だが、「実際によくあること」。遍路・介護移送をこな



添乗員の伴流高志さん(右端)は、一般旅行業務取扱管理者のほか介護福祉士、福祉住環境コーディネーター、福祉用具プランナーの肩書きを、左端の運転手は日本赤十字社救急救急員の資格をもつ



添乗員の伴流高志さんが作成した、札所のバリアフリーマップ。休暇を使い、自費で四国88か所の札所すべて踏査して書いた貴重な資料。番号は札所のナンバー、「P」は駐車場、「本」は寺の本堂、「大」は大師堂の略

す福井タクシー(高知市の伊東則男部長の証言だ。私自身も般若心経や真言を無念夢中に唱え、仏と弘法大師に手を合わせる。修業を3日終えただけで、頸椎の持病や足腰の痛みを忘れた。

人口や県民所得、製造品出荷額、農業生産額が右肩下がりの高知県で、増えているのはお遍路さんくらい。彼らが落とすのは、一泊二食5000円前後の遍路宿の宿代、一人1回3000円の寺に支払う納経代や5円玉の賽銭など。ささやかな金額だが、遍路道に暮らす庶民の暮らしを支えている。

篠塚社長によると、サービスの3要素は「ハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェア」だが、旅行のホスピタリティは、ハード(施設)よりもソフト(仕組み)とヒューマン(ひと)で決まる。福祉・介護がサービスだとするならば、ハード偏重の措置体質を捨て、ソフトとヒューマンなケアにもう少し意を注ぐべきではなからうか。

(取材:尾崎雄/撮影:榎並悦子)



紙おむつの吸収体は、



離すとモレル



くっつけると
モレない!



サルバ独自の「ダブルフィット構造」が
上層吸収体を押し上げ、常にお肌に密着。
「モレない!」を実現しました。

しっかりガードはモレの原因となる尿道口と吸収体の間にできてしまう空間を「W折れ」に矯正し、上層吸収体が尿道口に密着し、モレをガード!!



ダブルフィット構造

上層吸収体
下層吸収体



モレないパンツタイプは、



Dパンツ
しっかりガード



サルバ Dパンツ
しっかりガード長時間



サルバ Dパンツ
しっかりガードうす型



白十字株式会社

〒171-8552 東京都豊島区高田3-23-12

■お問い合わせ: ☎03-3987-6974 (サービスセンター)

<http://www.hakujuji.co.jp>

